

○35回 大阪理学療法学術大会

第35回大阪理学療法学術大会が開催されました。

今大会では、当院本田技師長が大会長を務め、9名のスタッフが研究報告・症例発表を実施しました。



ご理解とご協力をいただいた準備委員、運営スタッフ、各企業、当院スタッフなど多くの方々のおかげで無事に35回の学会を準備・開催することができました。誠に有り難うございました。学会を通じて多くの方々と意思疎通をはかることができとても有意義な経験となりました。今回の経験を糧に、当科が更に発展していけるよう取り組んでいきたいと思っております。



演者	演題
鶴本 一寿	再入院を繰り返す心不全患者の臨床所見の変化
富 謙伸	無気肺を呈した筋ジストロフィー患者に対して機械的咳嗽介助を導入した症例
村司 憲三朗	急性心筋梗塞後の心不全合併により不安抑うつ傾向を認めた症例に対する自宅退院に向けた介入
河野 風花	訪問リハビリテーション導入により屋外活動再開と疾病管理の定着を目指した呼吸器疾患患者
井上 雅代	安定期 COPD における呼吸困難と栄養指標の関連
三木 陵平	呼吸と同調させた動作指導により労作時呼吸困難が軽減し、病棟 ADL 向上に繋がった肺アスペルギルス症の一症例
藤原 裕貴	気腫合併肺線維症による労作時低酸素血症に対して高濃度酸素療法投与下での運動療法を実施した 1 症例
前田 麻里	退院前後で身体活動量と連続 SpO2 モニタリングを用いて設定酸素流量の適性を判断した間質性肺炎の一症例
森田 俊毅	左橋梗塞により右片麻痺を呈し、院内歩行自立を目指した症例

○第34回大阪理学療法学会で発表しました

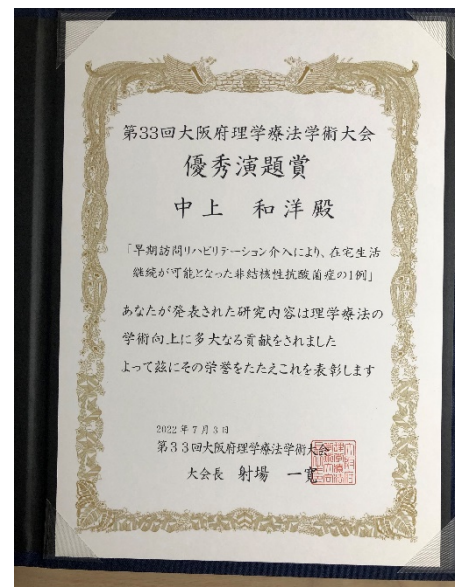
2022年7月3日

演者	演題
村司 憲三朗	急性期から在宅までの継続したリハビリテーションにより身体機能改善・活動性向上を認めた心不全患者の一例
河野 風花	心肺運動負荷試験（CPX）のクールダウン中に著明な血圧低下を認めた心不全患者
嶋津 鮎美	労作時呼吸困難感と易疲労性に着目した多発性筋炎の一症例

第34回大阪理学療法学会にて当院より3名が発表しました。


また表彰式にて昨年度優秀演題に選出された中上が表彰されました

中上 和洋
演題名：早期訪問リハビリテーション介入により、在宅生活が可能となった 非結核性抗酸菌感染症の1例
要約：呼吸困難感の訴えが強く転院も考慮された症例に対し、自宅退院後早期からの 訪問リハビリテーションにて身体機能や栄養に対するアプローチを行った結果、 在宅生活を継続が可能となった



豊浦 PT が、院内外にて講義をおこないました。

北野の訪問リハビリテーション



スタッフ（令和3年度現在）
PT：3名+ローテーション1名
OT：1名+ローテーション1名
ST：1名

切れ目なく院内
リハを自宅で継続

個別性を重視し、
地域へ引継ぎ

2018年11月～2021年7月まで
利用者数184名

活動内容


- ・各団体学会発表
- ・研究計画、発表
- ・北区在宅リハ連絡会役員
- ・北区包括自立支援型ケア会議出席
- ・北区ケアマネ連絡会研修会開催
- ・北区百歳体操講師 等

発表者	豊浦 尊真
日付	2021年8月18日
テーマ	院内地域医療部門への当院の訪問リハビリの活動報告
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・心臓・呼吸・がんリハがなぜ必要か ・急性期病院から自宅退院に向けた評価 ・訪問リハビリの紹介
対象	院内研修（地域包括向け） 当院のソーシャルワーカー、看護師等
場所	北野病院内会議室

発表者	豊浦 尊真
日付	2020年9月15日
テーマ	自立支援に向けたケアプラン～リハビリ専門職の視点から目標を立てる～
内容	自立支援を妨げる問題点を評価する視点が持てるようになるためには 利用者様の自立支援に向けた、リハ専門職の活用、目標設定
対象	大阪市北区ケア会議研修会 ケアマネージャー等
場所	北区地域包括支援センター内会議室

リハビリテーション科の上坂先生により

「日本心臓リハビリテーション学会 第5回 近畿地方会」にてシンポジウムにて、御登壇されました

	学会名	日本心臓リハビリテーション学会 第5回 近畿地方会
	会期	2020年2月15日
	シンポジウム	質の高い運動療法を目的とした理学療法士の工夫
	要約	心臓リハビリテーション（心リハ）の主軸となる運動療法は、高いエビデンスにより推奨されている。一方で、心疾患患者の高齢化や患者背景の多様化により、運動療法の進め方に苦勞することも多い。心リハは回復時期に応じて、Phase I～Ⅲに区別される。各Phaseでは、それぞれの目的に応じた運動療法が推奨され、患者の多様性に対応し、臨床現場で理学療法士の視点から、リアルワールドで様々な工夫をし、各Phaseにおいて効果的な運動療法を提供している。

第31回 大阪府理学療法学会で発表してきました

2019/07/21に大阪市大阪国際会議場で開催されました第31回 大阪府理学療法学会に当院リハビリテーション科より、松岡PT・富PT・徳元PTが口述発表、浦PT・久津輪PT・甲斐PTがポスターセッションにて発表を行いました。

各演題については以下の通りです。

口述演題

松岡森：ADL 維持向上等体制加算におけるリハビリ開始基準の検討

富謙伸：脳性麻痺児の排痰方法の検討 ～揺動刺激が排痰に有効であった1症例～

徳元翔子：治療に伴い著明なADL低下を呈した造血幹細胞移植患者の身体機能変化と1年間の経過

浦慎太郎：HAL®医療用下肢タイプとBWSOTを行ったポリオ二次感染の一症例

久津輪正流：糖尿病を既往に持つ心筋梗塞患者に対する運動療法の経験 ～運動耐容能低下の要因の検討～

甲斐太陽：低身体機能を呈する慢性Ⅱ型呼吸不全患者に対するHOT導入・ADL介入の検討



2019年7月21日に行われた「第31回大阪府理学療法学会」において、第33回大阪府理学療法士学会奨励賞をいただきました。

学会名 第31回大阪府理学療法学会

会期 2019年7月21日

演題名 脳性麻痺児の排痰方法の検討 ～揺動刺激が排痰に有効であった1症例～

要約 シーツブランコは、発達障害が見られる児に対する感覚統合遊びとして広く用いられてきた。今回の介入では揺動刺激が胸郭に与える刺激が児の排痰方法の1つとして使用できる可能性が示唆された。また、シーツブランコによる体性感覚の入力や体幹屈曲姿勢が姿勢筋緊張の調整に寄与した可能性がある。

脳性麻痺児の排痰方法の検討



辻本先生の第4回心臓リハビリテーション学会近畿地方会での発表報告

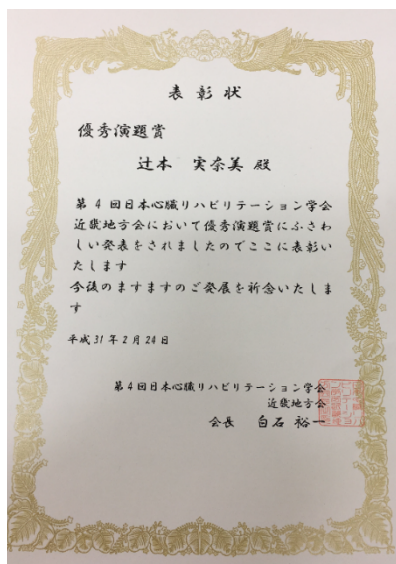
学会名：第4回日本心臓リハビリテーション学会近畿地方会

会期：2019年2月24日

演題名：術後リハビリテーションの進行が遅延した症例への多職種による多面的な介入

要約：術後不整脈によりリハビリが遅延した一症例に対し、多職種や患者家族による身体機能的・精神心理的・社会的側面からのアプローチを行った結果、自宅退院が可能となった。

※ポスターセッションⅣ急性期リハ・早期介入のセッションにおいて優秀演題賞を頂きました



「第 58 回近畿理学療法学会で発

表してきました」

2019/1/20 に奈良県で開催されました第 58 回近畿理学療法学会に当院リハビリテーション科より、豊浦 PT・松岡 PT・野村 PT がポスターセッションにて発表を行いました。

各演題については以下の通りです。

- ・豊浦尊真：高齢対麻痺症例に対する急性期病院における Hybrid Assistive Lime®の使用経験～装具歩行へ移行することができた 1 症例～
- ・松岡 森：当院における ADL 維持向上等体制加算認可取得に向けた取り組みと成果
- ・野村知里：安定期 COPD 患者に対する HOT 導入の身体活動量とその関連因子への影響

